

- 問1 景気が後退し、物価が下がり続けるデフレ傾向にあるとき、日本銀行が市場に出回る通貨の量を増やして景気を刺激しようとする際に行う操作として、最も適切な説明を選択してください。(2017年 埼玉県公立入試 類似)
1. 日本銀行が民間の金融機関から国債を買い入れ、その代金を支払うことで市場の資金を増やす。
  2. 日本銀行が保有する国債を民間の金融機関に売り、その代金を回収することで市場の資金を減らす。
  3. 政府が道路や橋などの公共事業への支出を増やし、社会全体の仕事の量を増やす。
  4. 公正取引委員会が価格カルテルを制限することで、企業間の公正な競争を促進する。
- 問2 資金の借り手である企業が、貸し手である家計や他の企業から資金を得る「直接金融」の仕組みについて、その具体的な説明として正しいものはどれですか。(2023年 福島県公立入試 類似)
1. 企業が株式や債券を発行し、それを家計などが購入することで、間に金融機関を挟まずに資金が流れる仕組み。
  2. 銀行が家計から預金として集めた資金を、銀行の判断と責任によって企業に貸し出す仕組み。
  3. 中央銀行が民間銀行の保有する有価証券を売買することで、世の中に出回る通貨の量を調整する仕組み。
  4. 政府が発行する公債を日本銀行が直接引き受けることで、国の財政資金をまかなう仕組み。
- 問3 企業が事業資金を調達する方法のうち、「間接金融」に分類されるものの説明として、最も適切なものはどれか。(2024年 大阪公立入試 類似)
1. 企業が銀行から融資を受けることで、必要な資金を確保する。
  2. 企業が株式を発行し、投資家から直接資金を募る。
  3. 企業が社債を発行し、購入を希望する個人から資金を借り入れる。
  4. 企業がクラウドファンディングを利用して、不特定多数から寄付を募る。
- 問4 日本の金融システムにおける資金の流れのうち、企業が株式を発行して資金を調達する「直接金融」の説明として、最も適切なものはどれか。(2021年 高知公立入試 類似)
1. 銀行が家計から預金として集めた資金を、銀行自身の判断で企業に貸し出す仕組み。
  2. 企業が発行した有価証券を、資金の出し手が直接購入することで資金を融通する仕組み。
  3. 日本銀行が景気調整のために、市中銀行に資金を供給したり回収したりする仕組み。
  4. 個人が自動車の購入などの消費を目的として、金融機関から一時的に資金を借りる仕組み。
- 問5 個人などの資金の出し手が銀行などの金融機関に預金を行い、その金融機関が企業などの資金の借り手に貸し出しを行う金融の仕組みを何といいますか。(2017年 岩手県公立入試 類似)
1. 直接金融
  2. 間接金融
  3. 消費者金融
  4. 公定歩合
- 問6 日本銀行が実施する「買いオペレーション」の目的と、その際の変化について述べた文として、最も適切なものはどれですか。(2022年 徳島公立入試 類似)
1. 不況の際に、日本銀行が国債を買い入れることで、世の中に出回る通貨量を増やし、景気の回復をはかる。
  2. 好況の際に、日本銀行が国債を買い入れることで、世の中に出回る通貨量を増やし、過度な物価上昇を抑える。
  3. 不況の際に、日本銀行が国債を売却することで、世の中に出回る通貨量を減らし、景気の回復をはかる。
  4. 好況の際に、日本銀行が国債を売却することで、世の中に出回る通貨量を減らし、過度な物価上昇を抑える。
- 問7 日本銀行が「公開市場操作（売りオペレーション）」を行う背景として、物価の動向と市場の仕組みを説明した文として、最も適切なものはどれですか。(2022年 茨城県公立入試 類似)
1. 不況によって物価が下落しているとき、企業の資金繰りを助けるために通貨量を増やす必要があるため。
  2. 好景気によって物価が上がりすぎると、貨幣の価値が相対的に下がると国民生活が不安定になるため、通貨量を絞って物価を安定させる必要があるから。
  3. 政府の税収が不足しているとき、日本銀行が国債を売ることによって得た利益を直接、公共事業の資金に充てて景気を下支えするため。
  4. 円安が進みすぎた際に、日本銀行が国債を売ることによって強制的に円高へと誘導し、輸出企業の利益を拡大させるため。
- 問8 日本銀行が担う「発券銀行」としての役割と、政府や国会の役割を区別したとき、日本銀行の業務として正しい説明はどれですか。(2017年 岩手県公立入試 類似)
1. わが国唯一の中央銀行として、日本銀行券を発行し流通量を管理する
  2. 国会において、国の収入と支出の計画である予算を審議し議決する
  3. 電気やガスなどの公共料金の価格を決定し、国民生活の混乱を防ぐ
  4. 道路や橋、公園などの社会資本を直接供給し、経済基盤を整備する
- 問9 日本銀行が景気の安定を図るために行う「公開市場操作」について、景気の状態とそれに応じた日本銀行の行動の組み合わせとして正しいものはどれですか。(2018年 高知公立入試 類似)
1. 不景気るとき、日本銀行が国債を買い入れて市場の通貨量を増やす。
  2. 不景気るとき、日本銀行が国債を売却して市場の通貨量を減らす。
  3. 好景気るとき、日本銀行が国債を買い入れて市場の通貨量を増やす。
  4. 好景気るとき、日本銀行が政府に働きかけて減税を実施させ、通貨量を増やす。
- 問10 家計、金融機関、企業の三者間における資金の流れを説明した以下の文のうち、間接金融の仕組みを正しく述べているものはどれですか。(2026年 富山公立入試 類似)
1. 家計が企業の株式や社債を直接購入し、企業がその資金を事業に活用する仕組み。
  2. 政府が家計から税金を徴収し、公共事業などを通じて企業に資金を供給する仕組み。
  3. 家計が金融機関に預けた資金を、金融機関が仲介役となって企業へ貸し出す仕組み。
  4. 日本銀行が市中銀行との間で国債を売買し、世の中に出回る通貨の量を調整する仕組み。
- 問11 不況（景気後退）の際、日本銀行が景気回復を図るために行う金融政策として、日本銀行が一般の銀行に対してとる行動と、それによって生じる市場の変化の組み合わせとして正しいものはどれですか。(2017年 岩手県公立入試 類似)
1. 日本銀行が一般の銀行から国債を買い上げ、市場に流通する資金量を増やす。
  2. 日本銀行が一般の銀行に国債を売り、市場に流通する資金量を増やす。
  3. 日本銀行が一般の銀行から国債を買い上げ、市場に流通する資金量を減らす。
  4. 日本銀行が一般の銀行に国債を売り、市場に流通する資金量を減らす。
- 問12 日本の中央銀行である日本銀行は、一般的な銀行とは異なる3つの重要な役割を持っています。そのうち、国が徴収した税金を預かったり、道路建設などの公共事業費の支払いを行ったりするように、政府のお金の出し入れを管理する役割を何と呼びますか。(2024年 宮城県公立入試 類似)
1. 政府の銀行
  2. 発券銀行
  3. 銀行の銀行
  4. 市中銀行

## 答え合わせ・解説

問1	<b>答え 1</b> 日本銀行が民間の金融機関から国債を買い入れ、その代金を支払うことで市場の資金を増やす。	不況の際には、日本銀行が民間の金融機関から国債などを買い取る「買いオペレーション」を行います。これにより、代金として支払われた現金が民間金融機関に流れ、企業や個人への貸し出しが容易になることで、経済活動を活性化させる狙いがあります。国債を売る操作は、景気が過熱してインフレの恐れがあるときに行われる逆の操作です。
問2	<b>答え 1</b> 企業が株式や債券を発行し、それを家計などが購入することで、間に金融機関を挟まずに資金が流れる仕組み。	直接金融は、企業が発行する株式や債券（社債）を投資家が直接買い取ることで成立します。銀行を仲介役とする間接金融とは異なり、投資家が企業に対して直接リスクを負うこととなります。この仕組みにより、企業は長期的な資金を安定して確保することが可能になります。
問3	<b>答え 1</b> 企業が銀行から融資を受けることで、必要な資金を確保する。	間接金融は、銀行などの金融機関が仲介者となって資金を融通する仕組みを指します。一方、株式や社債を発行して市場から直接資金を調達する方法は「直接金融」と呼ばれ、間接金融とは区別されます。
問4	<b>答え 2</b> 企業が発行した有価証券を、資金の出し手が直接購入することで資金を融通する仕組み。	直接金融は、借り手である企業が発行した株式や社債を、貸し手（投資家）が市場を通じて直接買い取ることで成立します。銀行が預金者と企業の間にとってリスクを負う間接金融に対し、直接金融では貸し手が直接的なリスクを負う代わりに、配当などのリターンを得る仕組みとなっています。
問5	<b>答え 2</b> 間接金融	資金の出し手と借り手の間に銀行などの金融機関が介在する仕組みを間接金融と呼びます。個人は銀行に預金することで利子を受け取り、銀行はその預金を原資として企業へ貸し出しを行い、企業から利子を受け取ります。これに対し、企業が株式や債券を発行して投資家から直接資金を調達することを直接金融といいます。
問6	<b>答え 1</b> 不況の際に、日本銀行が国債を買い入れることで、世の中に出回る通貨量を増やし、景気の回復をはかる。	買いオペレーションは、景気が悪い（不況）ときに行われる金融政策です。日本銀行が市場から国債を買うことで、市場に流通するお金の量が増加し、金利が下がる傾向になります。その結果、企業が銀行からお金を借りやすくなり、設備投資などが活発になることで景気を向上させようとする。反対に、好況時には通貨量を減らすために売りオペレーションが行われます。
問7	<b>答え 2</b> 好景気によって物価が上がりすぎると、貨幣の価値が相対的に下がり国民生活が不安定になるため、通貨量を絞り物価を安定させる必要があるから。	物価が持続的に上昇するインフレーションが起こると、同じ金額で買えるものが少なくなる（＝貨幣価値の下落）ため、国民生活に悪影響を及ぼします。日本銀行の重要な役割の一つは「物価の安定」であり、売りオペレーションを通じて市中の通貨量を減らすことで、過度な経済の過熱を冷やし、物価をコントロールしようとしています。
問8	<b>答え 1</b> わが国唯一の中央銀行として、日本銀行券を発行し流通量を管理する	日本銀行は「中央銀行」として、通貨（日本銀行券）の発行と管理を通じて経済の安定を図ります。これに対し、予算の議決は国会が行い、公共料金の認可や社会資本（インフラ）の整備は、主に政府や地方公共団体が政策として行う業務であるため、中央銀行の役割とは異なります。
問9	<b>答え 1</b> 不景気するとき、日本銀行が国債を買い入れて市場の通貨量を増やす。	不景気ときには世の中にお金を流通させる必要があるため、日本銀行が国債を買って代金を市場に流す「買いオペレーション」が行われます。逆に、好景気で物価が上がりすぎるのを防ぐときは、国債を売って代金を回収する「売りオペレーション」が行われます。税金の増減は政府が行う財政政策であり、日本銀行が行う金融政策とは区別する必要があります。
問10	<b>答え 3</b> 家計が金融機関に預けた資金を、金融機関が仲介役となって企業へ貸し出す仕組み。	間接金融では、家計から預金として集められた資金が、金融機関というフィルターを通して企業へと流れます。これに対し、家計が直接株式などを買う仕組みは直接金融と呼ばれます。金融機関が間に入ることで、個々の家計は直接的な投資リスクを避けることができます。
問11	<b>答え 1</b> 日本銀行が一般の銀行から国債を買い上げ、市場に流通する資金量を増やす。	不況のときには、世の中に出回るお金の量を増やして経済を活性化させる必要があります。日本銀行が一般の銀行が持っている国債を買い上げることで、その代金が銀行に支払われ、結果として市場に流通する資金量が増加します。これにより、企業や個人が銀行からお金を借りやすくなり、景気を向上させる効果が期待されます。これを買いオペレーションと呼びます。
問12	<b>答え 1</b> 政府の銀行	日本銀行は、国が扱う資金（国庫金）の管理や、国債（国の借金）に関する事務、さらには政府への資金の貸し出しといった業務を担っています。このように政府にとっての銀行として機能することを「政府の銀行」と呼びます。他の役割として、唯一紙幣を発行できる「発券銀行」や、民間銀行との間で資金の貸し出しや預金の受け入れを行う「銀行の銀行」があります。